



The Place To Be?



## ■まえがき？

はじめましての方も、そうでない方も今日は、つかと申します。

今回が初めての個人誌です。

Fateです。藤ねえです。

もうほんとにゲームやってすぐにイメージだけで描いてしまったので（言訳）絵もコマごとに誰だか分からなくなったりとか、いろいろと設定間違っていたりとかあるみたいです。先に謝ってしまおう、ごめんなさい。

4 どういうわけか滅茶苦茶くらーい雰囲気になってしまってるし（謝）、話も自分でもよくわからなってるし（謝）、全然エチク無いし・・・（謝）。

まあ、ただなんとなく2人がその後ちょっとだけ幸せになってくれるとうれしいなと思っている訳です。

ただなんとなく、そんなところが伝わればうれしいなと。

そんなわけで、本文です。少しでも楽しんでいただければ幸いです。


ではでは。

2004. 12 つか


では、  
改めて—

じゃ、

決まりね♪



なによー  
士郎は嫌なの？



そっ  
そうじゃ無いけど—



いただきます。

「やま」♡

5



あーい



♪



あのなあ、  
藤ねえ・・・

The Place To Be?

6

もう何年に  
なるんだっけ——

ほくひ

それは食い物  
じゃないぞ。

あーん





こんにちはー。

やあ、  
大河、

よく来たね。

私は、  
今と同じ場所で  
別の人に  
恋していた。



まじで。

衛宮切嗣——  
彼に一目惚れした私は、  
毎日のようにこの家に  
押しかけては、  
たわいもない話を  
聞かせていた。



はじめは、  
そばにいただけで  
幸せだった。  
でも——



もっと近くに、  
その想いは  
どんどん  
大きくなって、

ある日、  
その日士郎が  
帰らない事を  
知った私は——



私を、  
抱いてくれませんか

いくら私でも、  
それがどんなに  
とんでもない  
お願いかぐらい  
わかっていた。

あの、  
いやなら  
いいんだけど

いや、  
よくないけど

それでもこれは、  
私にとって  
一世一代の大勝負  
だったのだ。

困ったな。

突然の私の言葉に、  
彼は微笑みながらも  
本当に困った様子だった。

やっぱり、  
私じゃダメですか？

僕も大河のことが  
大好きなんだよ。

私の心配と裏腹に、  
彼は、  
最高の返事をくれた。  
と、思った。

じゃあっ——

でも、

僕にはもう  
その資格は  
無いんだ。

次の瞬間――

彼は、  
他人事のように、  
自らの死を宣言した。

僕は、  
明日

死ぬことに  
なってるんだよ。


そん、な――

でも、

そんな話、普通なら  
信じられるはずが無い。  
現に今ここで、  
元気に話しているのだ。

その言葉が、  
真実であると、  
はつきり  
わかってしまった。





嘘じゃ、  
無いんですね。

うん。

私のこと、  
好きだってことも？

だったら—

もちろん、  
そっちも本当。

だったら  
なおさら—

私を、  
抱いてください。

本当に、後悔しないね。

はい。

後悔なんて、  
するはずが無い。  
これは、私が一番  
望んでいたこと  
なんだから。

はあっ

切嗣さんは、  
本当に優しく、  
私を愛してくれた。

快感で、  
頭がおかしく  
なりそうだった。

はあっ

最愛の人に  
抱かれています。

もし気持ち  
届かなくても、  
ただ一度  
抱いてもらえれば  
良いと思っ  
ていた。

ところが彼は、  
最高の返事  
してくれたのだ。  
それが幸せで  
ないはずが  
無い。

あっ

でも、  
だからこそ、  
願ってしまった。

あっ

ああっ

あつ

「ぽい、ぽい、ぽい、ぽい」

死んじや  
やだつ…

これが、  
最初で最後の  
抱擁だなんて、  
許せなかった。


切嗣  
さんつ

ごめんね。

切嗣  
さん。

死んじややだ—

これが、彼にとって  
もつとも酷な  
言葉だつてことは、  
わかっていた。



そうして、  
切嗣さんは本当に  
この世を去った。

「困ったな、  
女の子は泣かせない  
主義なのに——」  
なんて言っていた彼の


藤ねえ。



切嗣さん……

何でそんな顔が  
できるんだろう——  
その答えは  
すぐにわかった。

その顔は  
泣いているこっちが  
ばかばかしくなるくらい、  
穏やかだった。



おれ、  
親父の遺志を継ぐって、  
決めたんだ。

俺が、  
藤ねえを  
守ってやるよ。

そうだね。

だから、  
もう泣くなよ。

士郎は、自分だって  
一晩泣き明かしたような  
真っ赤な眼をして、  
私に言った。

「ああ、  
この子はもう立派に、  
衛宮士郎なんだ——」  
そう、思った。

がんばってね。  
士郎。

きっと、  
切嗣さんも  
同じだったんだ——

それからも、  
私たちはこの家で  
時間を過ごした。

士郎はすっかり  
大きくなったし、  
私は髪を切り、  
教師になった。

そして私たちは、  
いつからか、  
こんな関係に――

そんな訳で、  
私は今、  
とても、幸せなのだ。

このいかにも  
呆れたと言う顔  
には少々言いたい  
ことがあるけど

はあ……

士郎ってば  
照れちゃって  
かわいいー♪

なによー

士郎は優しいし、  
ご飯はおいしいし、  
この家にいる時間は  
本当に楽しい。

士郎ご飯まだー

それでもふと、  
あの日の事を  
思い返してしまう  
のは――

士郎がどんどん、  
切嗣さんに  
近づいていくのが  
わかるから？

はむっ

それとも――







あはっ  
おいし。

ご馳走様  
でした。

はあ



この  
エロ虎めー

あー、  
それは酷いぞ。

士郎も近頃  
Hになって  
きたねー♪

なっ  
藤ねえに  
言われたく  
ないぞ。

ったくー

あつ

あああつ  
それいいつ

ふあつ

んんっ

ずいぶん  
いいみたい  
だね。

はあ

はあ

はあつ

あつ



はあ

やああつ

あつ

あつ、はあつ

はあ

すごい  
びしよ濡れだよ  
藤ねえ

んああつ



足、  
もっと広げて

やっ

あつ



あつ、や

ああああつ

あつ  
ひあつ

ぴちや  
がちや

びっ

とまらないっ

び  
し  
や  
!

それ  
ダメっ

ダメっ、やっ

ヒクヒク  
ヒクヒク

うあつ

あ

士郎の、  
イジワル。

やっぱり  
藤ねえは  
スケベだな。



あつ、  
すごい硬いっ——



スケベで  
いいもん。



もう、  
入れるね。



入  
つてくるっ。

ああつ  
奥まで



あはあつ

すごいよつ  
ああつ

やあつ

ひあつ

もお  
ダメつ

私、  
もうつー





士郎……

何？  
藤ねえ。

私より——

先に死んじや  
ダメだからね。

ったく、  
当り前だろ。

絶対に  
ダメ  
なんだから——

は？  
突然何  
言いだすんだよ。



士郎

言ったらろ——

俺が、  
藤ねえを守るって。

なんでだろう——

こんなにも幸せなのに  
この胸騒ぎが収まらないのは――

士郎もいつか  
切嗣さんの様に

私の前から  
居なくなってしまうんじゃないかって――

## ■ 藤ねえ

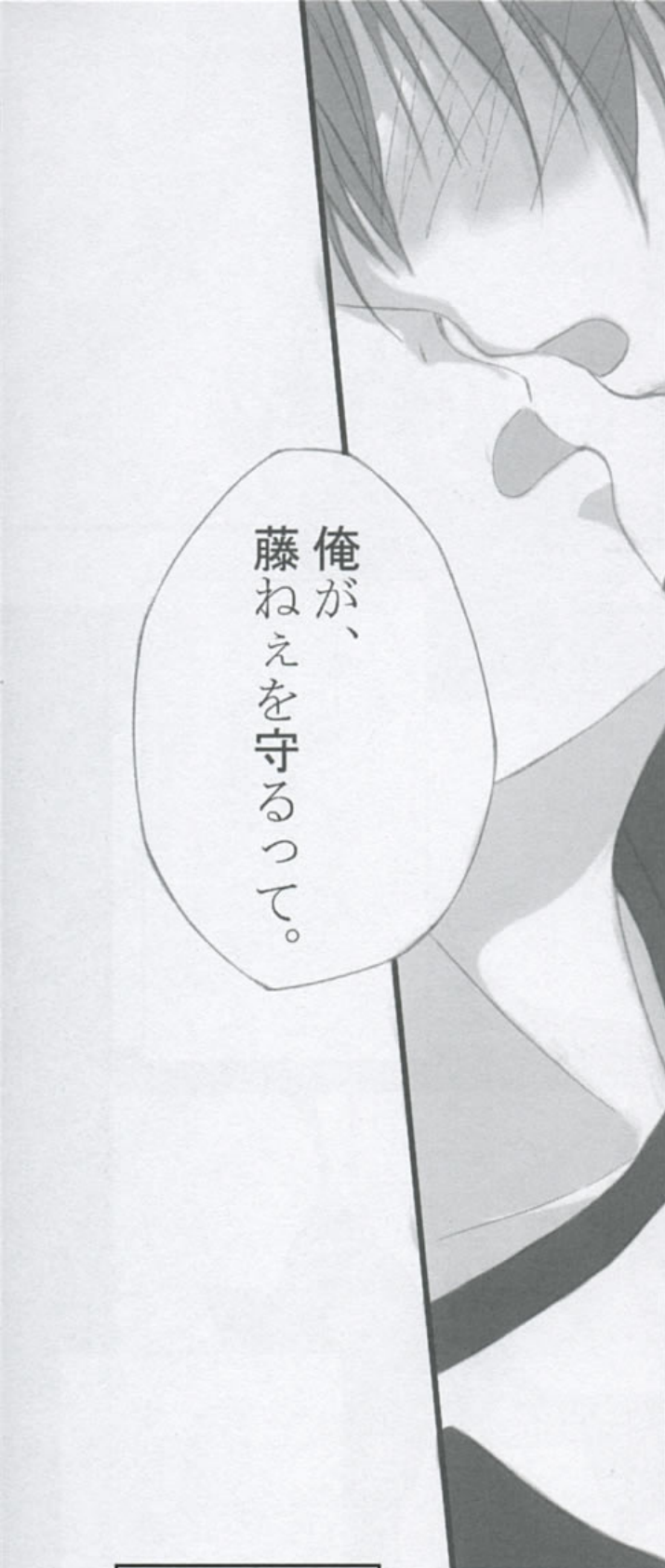
遅ればせながら9月になってからやっとゲームの方をやることができました。とりあえず全シナリオ終わるまでは同人誌も読むまいと必死に我慢してましたよ。それにしても常に時代に一步遅れをとっているのがくやしいというかなんというか。

個人的にはセイバールートでもうやられてしまったので、実はゲームやってる時から「絶対セイバ一本を！」などと思っていたのですが、いつの間にかこんなことに！

藤ねえは学生時代に名を馳せた女剣士だったり、やくざ屋さんの娘だったりとはいえ、サーバントや魔術師などとは違い、言ってみれば「普通の人間レベル」なんですよ。(ま、ミカンを一口で食べるあたりは超人級ですが・・・) それでもきっと藤ねえは強いのです。言動は滅茶苦茶ですが、誰よりも優しくったり・誰よりも責任感が強かったりするのです。士郎にとってもきっと、心強い友軍であり、かけがえの無い人なのです。


って感じの妄想だけで描いてしまったわけなんです。藤ねえの活躍とか、かわいいところとかもいろいろかければよかったのですが。

そんなわけで、いろいろと中途半端なんですけど、もう少しだけお付き合いくださいませ。




俺が、  
藤ねえを守るって。

それから、  
ほんの数日後の  
こと――




ある晩遅く——  
士郎が大きな怪我をして  
帰ってきた。

その日私は、  
なぜか衛宮の家から  
離れられずにいた。



士郎っ——



大河——

藤ねえ、  
なんでこんな  
時間に——

士郎に肩を貸している  
いるセイバーちゃんも、  
疲れきった様子だった。

ごめん、  
藤ねえ。

今日はちよつと  
余裕無い……

そう、この子が来る  
少し前から、  
この街の様子が  
おかしくなっていた。

それから彼女は、  
話してくれました。

もう――

聖杯戦争――

話さねば  
なりませんね。

英霊――

そんな漫画のような話を、  
私は何の疑いも無く  
受け入れていた。

大河、  
すまないが、

私はまだ、  
シロウに戦って  
もらわねば――

うん、  
わかった。

そっか――

それにこれは、

士郎が決めた  
ことなんでしょ。

胸騒ぎの原因は  
これだったんだ。

士郎はやっぱり

切嗣さんの  
子なんだ――

しかし大河、  
できることなら

私を、  
信じてほしい。

私は、

必ずシロウを  
守ります。

うん。

信じる。

その——  
彼女の言葉には  
一片迷いも無かった。

それが、  
本当に心強かった。


シロウと、

同じなの  
ですね——

貴女の言葉は、  
とても、  
心強い。

感謝します。  
大河。

貴女に会えて、  
本当に良かった。



それはこっちの  
台詞だよ。

でもできれば、  
士郎を守るって

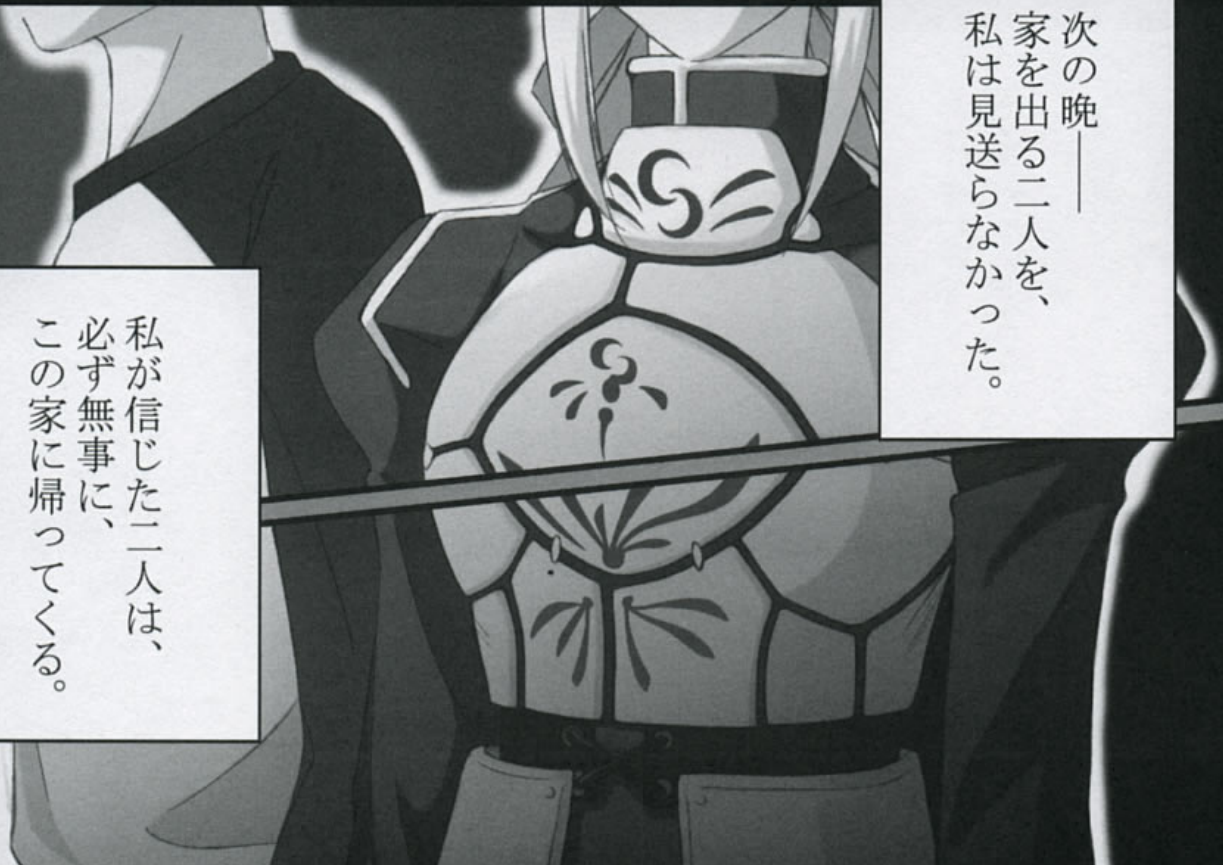
その役は  
私にさせて  
欲しかったな。

いいえ、本当に  
シロウを支えているのは、  
大河の方です。

それに――

きつと――  
大丈夫だ。

戦いは、  
明日で終わりです。



次の晩――  
家を出る二人を、  
私は見送らなかつた。

私が信じた二人は、  
必ず無事に、  
この家に帰ってくる。





だから――

行きましよう。  
シロウ。

ああ、行こう。

明日は私が、  
朝食の準備をしよう。

## ■あとかき？

そんなわけでこの度は最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございました。如何でしたでしょうか？多分いろいろとおかしな所があると思いますー。すみませんー。根本的に藤ねえ本なのに藤ねえに見えないんじゃないかと心配です……。またこれからいろいろ描いて練習して行きたいと思っているのですが……。

今まではCG集などを中心に活動して、本を作ろうっていうのが初めてだったのですが、ほんとに白黒の絵の下手っぷりが身にしみますー。しかも、今回初めてのオフセの本ということで、どういう風に印刷にできるかわからないわけで……。

それでも感想などいただけると大変喜ぶます。よろしくお願ひしますー。

それから、現在はHPの方で、EVAなど中心にいろいろとお絵かきをしています。そちらの方にも遊びに来て頂けるとうれしいです。

また何かの機会にお会いできると幸いです。ではでは。

2004.12 つか





■ おまけのイラスト。

ひとまずFateお気に入りキャラのイラストを。  
ホントに皆惹かれる部分があるのですが、  
今回はこの辺で一。

■ セイバー

とにかくセイバーには最初からやられっぱなしでした。  
セイバーのエンディングについては、本当に切ないと思  
う反面、願わくば彼女の眠りが永遠に安らかであらんこ  
とをなどと思ってしまうのでなんともかんとも。



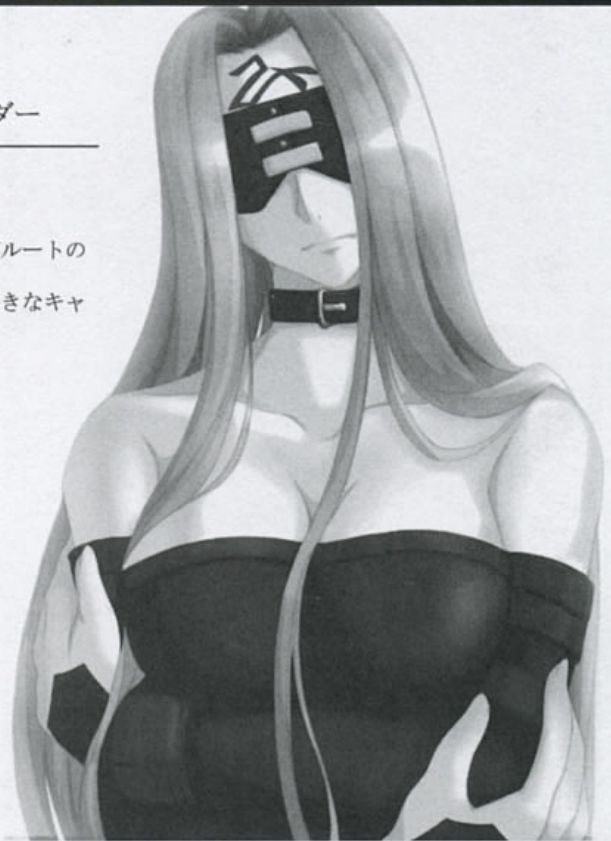
■ 遠坂 凛

遠坂は最強のくせに妙に抜けてるところが憎めません。  
ホントは良いやつだー。当初はアーチャー×凛よりも  
士郎×凛の方が良いかなーと思ってたのですが、これ  
また現在はなんともかんとも。っていうか胸を大きく描  
きすぎました。すみません。



## ■ ライダー

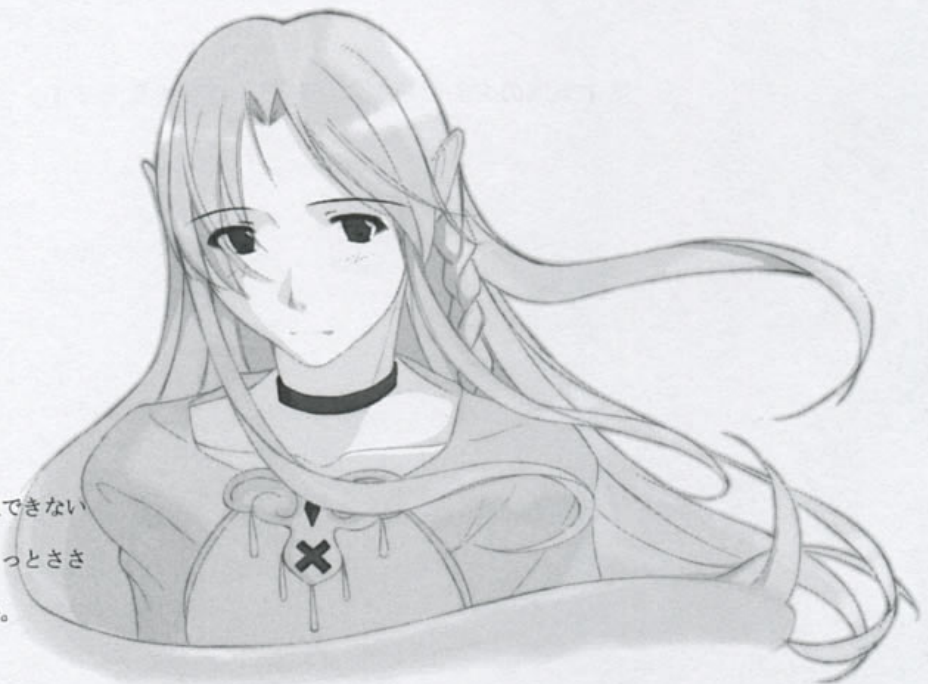
桜ルートでの漢っぷりには感服。その点凜ルートのあれはといったい……。性格的にすごく好きなキャラです。カッコいい。



■ アーチャー セイバールートでは一番の見せ場を女性陣二人に持たせていかれた感の強いアーチャーですが、とにかく凜との信頼関係みたいなのが良かったですね。彼にはがんばって欲しいと思います。

## ■ キャスター

あの口元からはあの顔は想像できないのですが……。彼女にももっとささやかな幸せをあげてください。



お く づ け

「The Place To Be ?」

---

■発行日 2004. 12. 30

■第二版 2005. 01. 22

■発 行 と う い ー く

■印 刷 太陽出版株式会社 様

■E-mail fwnv5388@mb.infoweb.ne.jp

■URL <http://homepage3.nifty.com/rakutsuka/index.htm>

<http://homepage3.nifty.com/rakutsuka/bstop.htm>

---

18才未満の方の購読・無断転載・複製を禁じます。

The Place To Be?

T w e a k